

チャイコフスキー国際コンクール覇者！上原のロシアニズムを聴く！！

上原彩子 × ラフマニノフ

〈オール・ラフマニノフ・プログラム〉

幻想的小品集

エレジー 変ホ短調 op.3-1

前奏曲「鐘」 嬰ハ短調 op.3-2

メロディ ホ長調 op.3-3

道化師 嬰ヘ短調 op.3-4

セレナード 変ロ短調 op.3-5

ピアノ・ソナタ 第1番 ニ短調 op.28

前奏曲集 より

変ロ短調 op.32-2 / ヘ短調 op.32-6

ヘ長調 op.32-7 / イ短調 op.32-8

イ長調 op.32-9 / ロ短調 op.32-10

ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 op.36

2023 11.23 (木・祝) 14:00 開演 [13:00 開場] 5,000 円 (全席指定・税込)

ザ・シンフォニーホール 主催：ザ・シンフォニーホール

ご予約・お問合せ ■ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休) <https://www.symphonyhall.jp>

プレイ
ガイド

■E+ (イープラス) <https://eplus.jp/symphonyhall> (パソコン・携帯) ■チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonyhall/> [Pコード: 240-458]

■ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonyhall> [Lコード: 56799]

※未就学児のご入場は御遠慮いただいております。※やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。※公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承下さい。

上原彩子×ラフマニノフ

抒情的でそこはかとなく憂愁ただようセルゲイ・ラフマニノフ（1873～1943）の音楽。今年は彼の生誕150年、没後80年にあたる。チャイコフスキー国際コンクール優勝から20年以上を経て、今や日本を代表する名手として円熟味を増しているピアニストの上原彩子が、オール・ラフマニノフ・プログラムを組む。華奢で楚々とした雰囲気の上原が紡ぎ出す音楽は、驚くほどスケールが大きく、華やぎに満ちている。ピアノという楽器を扱う卓抜とした手腕をもつ上原は、ささやくようなピアノの美しさにも定評がある。数多くのレパートリーの中でロシア音楽は上原の中核となっており、これまでラフマニノフでも名演を聞かせてきた。今回はリリカルで多彩な作風の《幻想小品集》に加えて、古典的な格調の高さもあるソナタ第1番ニ短調、そして珠玉のミクロコスモス13曲による《前奏曲集》作品32からの抜粋が取り上げられる。記念イヤーに合わせて、多くのピアニストたちがラフマニノフを演奏するであろう2023年。そうしたなかでも、上原彩子によるリサイタルは、ひととき格別なものになるにちがいない。

伊藤制子

今年は、私が尊敬してやまないピアニストで作曲家、ラフマニノフの生誕150周年。その記念の年に、彼に想いを寄せながら、オールラフマニノフのプログラムを、大好きな大阪のお客様に聴いていただけるこの喜び。本当に幸せに感じています。

ピアノをチェロの様に歌わせ、鐘の様に鳴り響かせ、雷鳴の如く轟かせ、それでもピアノならではの、そして人の指が奏でることしか生まれないしなやかさを失わず。音楽は、どこまでも深く、大地に根を張るようであり、人類を優しく包み込んでくれる大きな愛に溢れています。

ザ・シンフォニーホールの素晴らしく贅沢な響きの助けを借りながら、私なりにラフマニノフへのオマージュを表現できればと思います。

上原彩子

上原彩子 [ピアノ]

第12回チャイコフスキー国際コンクールピアノ部門において、女性としてまた、日本人として史上初めての第一位を獲得。第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。これまでに、ヤノフスキ、ノセダ、ルイ・ジ、ラザレフ、ベトレンコ、小澤征爾、小林研一郎、尾高忠明、飯森範親、各氏等の指揮のもと、国内外のオーケストラのソリストとしての共演も多い。2004年12月にはデュトワ指揮NHK交響楽団と共演し、2004年度ベスト・ソリストに選ばれた。CDはEMIクラシックスから3枚がワールドワイドで発売された他、キングレコードより「ラフマニノフ13の前奏曲」「上原彩子のモーツァルト&チャイコフスキー」「デビュー20周年記念コンサート・ライブ盤」等4枚がリリースされている。東京藝術大学音楽学部早期教育リサーチセンター准教授。令和4年度文化庁長官表彰受賞。

公式HP：<https://www.japanarts.co.jp/artist/AyakoUEHARA>

